

平成24年8月1日

与謝野町

第6回与謝野町庁舎統合検討委員会の結果について（速報）

標記委員会を開催しましたので、以下のとおりお知らせします。

日 時 平成24年7月30日（月）午後1時30分から午後4時15分
場 所 岩滝保健センター 2階会議室
委員出席 17名（欠席者2名）
町出席 堀口副町長
浪江企画財政課長ほか事務局職員3名
傍聴者 12名
会議結果 主な内容は、以下のとおりです。

<開会>

事務局から委員の出席状況と、町側の出席者を報告。資料の確認。
なお、町長は公務のため欠席の旨報告。

<委員長あいさつ>

村山委員長からあいさつ

<報告事項>

次のとおり資料に基づき事務局から説明。

(1) 正職員、臨時・嘱託職員の人数の推移（旧町の内訳）

前回会議で求めのあった旧町の職員内訳を説明。

(2) 各庁舎の組織・職員配置図（現状）

現在の各庁舎の配置について資料に基づき説明。

<質疑>

- 合併直後に比べて最近では正職員の減り幅が小さい。
- 将来に向けた職員数の推移についてどのような見通しをもっているのか。
- 庁舎内職員数は減っているが、出先の臨時嘱託職員数が増えている。
- 庁舎内でも正職員は昨年からは1名しか減っていない。
- 臨時・嘱託職員の勤務時間を正職員の勤務時間8時間に置き換えると何人の換算になる

のか。

- わかりやすい資料だが、岩滝庁舎の3階と野田川庁舎の2階も加えてほしい。
- 面積的に見た目でもわかるよう、縮尺を統一してほしい。
- 階ごとの面積も加えてほしい。
- 職員数には臨時・嘱託職員の庁舎内外別も加えてほしい。
- かなりの人数がいるが、これだけの人数が本当に必要なのか？適正配置の思いを聞かせてほしい。
- この人数だとかなりの優良企業だ。忙しいのは民間事業所も同じだ。
- 元気館など、付属する建物も示してほしい。
- ただ単に人数のことだけではなしに、庁舎を統合した場合の仕事の効率化やどのようなメリットがあるのか、その辺はどうなのか。

<議事>

(1) 課題の整理（中間まとめ）についての協議

資料1ページの課題について協議し、委員からは以下のような質疑・意見がありました。

- 議論の進め方としては、まとめてある資料の一項目ずつ掘り下げていく方がわかりやすい。
- 消防団員が少ない中、特に昼間は他町に務めており、火災の際、役場に勤務する団員は役に立つと考えている。特に岩滝の場合を危惧しており、1分2分を争うときのことを考えると、現状的には分庁舎方式がよいと考えている。
- 防災、減災を考えた場合、新庁舎を建設してその機能を持たせることが望ましい。従って、当分の間は分庁舎方式で、しかるべき時期に中央に庁舎を建設して集中させることがベストだと考えている。
- 海岸線にあれば津波、河川にあれば氾濫と、どこにあっても最近では災害にあうので、3庁舎を考えた場合、メリットデメリットがそれぞれあるはず。
- 現段階において、防災面で100%OKというものはないので、ある庁舎を総合庁舎にしていくというような安易な考え方ではだめだと思う。1つの庁舎では不安である。現状の3庁舎を残して、総合庁舎化は保留とするべき。
- 消防団員の現状を聞いて3つに分けた方がよいかとも思う。しかし、どこの庁舎になるにしても1本のしっかりした指揮命令系統があればよいとも考えておりもう少し自問自答したい。
- 庁舎を一本化することには基本的に賛成である。本来は中央にどんな災害でも耐えられる庁舎を建設すればよいと思う。加悦庁舎にもって行って野田川の支所に数名が残ったとしたらどうなのかと危惧する。
- 消防団のことは聞いたが、それ以外に与謝野町で想定しなければならない災害対策は何か。

- 防災体制について、一つにある方が指示命令がし易いという意見があるが、東日本大震災のように一つの庁舎が壊滅したらどうするのか。加悦庁舎1本で本当に大丈夫なのか。
- 岩滝は本庁舎が岩滝だったから賛成した。加悦にもっていくというのは住民を無視したものである。町を2分することをしなければならないのか。
- 一つの庁舎に集中されて、災害の際に地元の現状を何もわからない職員が配属されても、何もわからなければ何にもならない。
- 防災体制の面では、3つに分けて、それぞれが単独で動けるようにすることが望ましいと思う。従って、分庁舎方式が望ましいと考えている。
- 防災面で考えると、1つの庁舎にまとめることは考え直さなければならないと事務局からお答えがあったが、具体的な修正案を出される予定はあるのか。
- 地域の消防団と宮津与謝消防組合との関係は連携されているのか。
- 火災は消防団が対応し、常備消防は救急を主に対応している。消防団員である職員がいるが、庁舎を置いたら安心というものではなく、団員である職員がいるから大きな役割を果たしていると考えている。
- 災害の対応については、3つの庁舎にあっても対応できるものばかりではなく、災害の規模や地域とかで変わってくると思う。
- 火災の際、例えば、岩滝に在住する職員（岩滝分団員）が加悦庁舎に勤務している場合、加悦分団に加わって出動しているのか。
- 一つの庁舎になっても、それが加悦の庁舎になっても、そんなに遠くないと思っている。東日本大震災を受けて災害マニュアルは整備できているのか。
- 庁舎を1つにすることでコストが削減できるし、真山先生の研修会でも1つにすることがいいとされていたので、総合庁舎にすることが望ましいと思う。ただし、3億8500万円は少しでも安くする方向で検討願いたい。たとえば、教育委員会が加悦庁舎になくてもよいのではないか。
- 総合庁舎化は効果があるがデメリットもある。住民の一体感の醸成ということが進められる中、総合庁舎は待ったなしの問題なのか疑問。住民に行政への不信感をもたせることなく、住民の思いをしっかりと斟酌しないと禍根を残すことになるのではないか。
- 住民に軋轢（あつれき）を残して総合庁舎化が必要なのか。効果もあるかもしれないが、デメリットもあるのだろうと思っている。
- 3億8500万円の明細をもう少し説明願いたい。少なくて済むということもあるということか。
- 多額にわたる改修費を使わずに、できるだけ安くするという考え方はあるのか。
- 庁舎維持管理費の削減効果1200万円だけではなく、他の効果額も含めてもらわないといけな。住民サービスの効果が見えてこないが、このへんはどうか。
- 顧客（町民）から見ると、加悦に移れば町民はガソリンを使って加悦に移動することになり、職員の移動だけで効果を見るのはおかしい。明らかに住民サービスが低下するの

は間違いない。

- 私の感覚では15年先は与謝野町が与謝野町のままでいないと思う。この点からも同意ができない。
- 住民サービスの低下がないことを前提に議論してはどうか。今でも、与謝、奥滝の方が岩滝庁舎に来られているケースもある。皆さんができるだけご苦労されることがないようシステムを研究しながら考えればよいのではないか。
- 庁舎の維持管理費のほか、職員の庁舎間移動、地域振興課の廃止による職員人件費、庁舎の日直の廃止など、削減コストを示してもらっているが、私の意見はコスト論だけではだめだと考えている。
- 合併時の旧町職員が、加悦100人、岩滝79人、野田川127人と示してもらったが、人口が3倍になったからといって仕事量が3倍になるとは考えられないし、それぞれの旧町方式があって完全に1本にできないという事情もあるが、業務改善という議論の余地はまだまだあると思う。行革では目標とする職員数は230人とあるが、それにこだわらずに「適正職員数」とはどのようなものなのか、十分検討しなければならない。もっともっと少ない人数でいけるのではないかと思われる。町長は機構改革をすることも明言されており、それも踏まえ、業務の改善もしたうえで適正職員数により必要な庁舎はどうなのかをじっくり考えていかなければ将来に禍根を残すと思う。適正な人数が出てきたら、もしかしたら改修しなくても済んだり、もっと踏み込めば新庁舎が建設できるかもしれないので、その検討なくして総合庁舎は語れないのではないか。

<委員長まとめ>

- 午後4時を回ったため、今日の議論はこれで終結したい。次回は、資料の2ページから行いたい。

その他

次回（第7回）会議を、9月5日（水）午後1時30分から開催（場所は未定）することを決定。

<副委員長あいさつ>

青木副委員長の閉会挨拶があり閉会。

<問い合わせ先>

与謝野町企画財政課

TEL 0772-46-3084

FAX 0772-46-4630